

地域医療の充実へ多職種連携教育

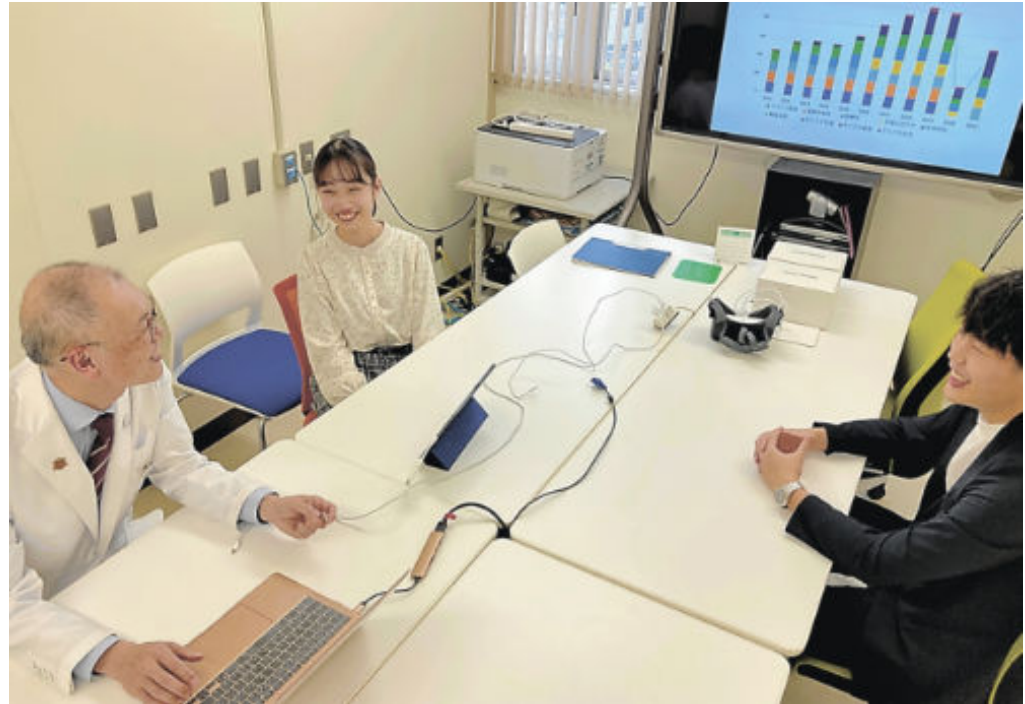
地域包括ケアの 実践人材を育成

多くの有人離島があり、多様な地域性に富んだ長崎県。地域の特色に応じた医療をどう充実させていくかは大きな課題だ。長崎大医学部では2004年から、県五島中央病院内に地域拠点を設置し、地域医療学として研究、教育を本格化。離島でのフィールド実習を必修とするなど、地域の暮らしや、ニーズを直接感じ取ることができる医療教育に注力してきた。

同大大学院医歯薬学総合研究科地域医療学分野の永田康浩教授は「地域医療は私たちを取り巻く社会と密接な関係があり、経済や人口問題、医療資源の配置などが複雑に絡み合っている」と指摘。「医師や看護師、施設など医療資源が限られた地域において、住民ニーズに応えるためには、多職種による連携が必要」とし、医療や福祉、保健、介護といった専門職が一体となって地域を支える「地域包括ケア」という視点の大切さを強調する。

同大医学部では学年に応じた多職種連携教育を実施。例えば、1年と4年次には医療系(医学科、保健学科、歯学部、薬学部)がテーマを決めてグループ学習する連携授業を、2年次には医学科、保健学科(看護、理学、作業)と長崎純心大の福祉系学科と共修授業、4・5年次は臨床実習など、切れ目ないプログラムを用意。永田教授は「それぞれの専門の違いや、カバー領域を理解する良い機会になっている」と効果を説明する。

永田教授によると「地域」という言葉で



地域医療について学生に説明する永田教授(左)

||長崎市坂本1丁目、長崎大医学部

想起するイメージで、医学系の学生が挙げるのは「離島」「へき地」。一方で、福祉系の学生から出てくるのは「コミュニティー」「生活」「クライアント」。「同じ対象でも、専門によって視点が違うということ」を早期から学ぶこと。異なる分野の学生

が交流することで、専門性を改めて認識し、学びの深化につながっている」と話す。

地域包括ケアを実践できる人材育成をゴールに見据える永田教授。「長崎大の取り組みが社会モデルとなり、広く発信できることを目指す」と力を込める。(内野大司)

略歴



長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
地域医療学分野

永田 康浩 教授

ながた・やすひろ 東京都出身。1986年、長崎大学医学部医学科卒。同大病院第2外科医員、米メモリアル・スローン・ケタリングがんセンター研究員、国立病院

機構長崎医療センター医長などを経て、2013年12月に長崎大学大学院医歯薬学総合研究科地域包括ケア教育センター長・教授に就任。20年8月から現職。